

編集実行委員会便り

研究論文の電子ジャーナル化のお知らせ

本号では、『エネルギー・資源』誌の長年の伝統であった特集がなく、それに替わって研究論文を集中的に掲載したものとなりました。この背景を述べさせていただくとともに、2008年からの論文掲載方法変更の概要についても説明させていただきます。

右のグラフは、第22巻（2001年）から第27巻（2006年）の間の研究論文掲載数の変遷を示します。以前は各号あたり2～3編、年間6号の合計で15編を越えたことのなかったものが、最近になって急激に増加してきました。増加の理由は明確には把握できておりませんが、ともあれ学会のアクティビティを示すバロメーターの一つである研究論文が増えることは大変喜ばしいことでもあります。

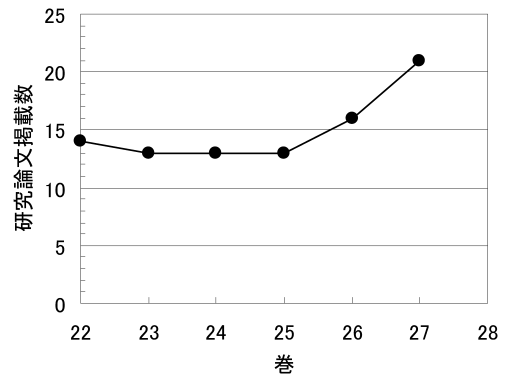
ただ一方で、出版に充当できる予算にも限りがありますので、採択された研究論文数に対応して無制限に紙数を増やすことはできません。とはいっても、新しい貴重な知見を含む研究論文を可能な限り早く発行することは、学会の最重要使命の一つであります。

このような理由から、やむを得ず、通常は特集に割り当てている紙数を研究論文に充てざるを得なくなったというのが、本号です。『エネルギー・資源』誌は、毎号にタイムリーかつ充実した特集を企画し、読者の高い評価を得てきたと、編集実行委員会では自負しております。その特集を次号に先送りすることは、たいへんつらいことでした。

増加する研究論文によって圧迫されているのは、特集だけではありません。当委員会では、会員にさらに多様なサービスをすべく、新たなコーナーを導入したいと検討しておりますが、やはり紙数制限のために実現できず、もどかしい思いをしています。

このような複数の理由から、今後の研究論文数の動向を精度よく予想することは難しいものの、現実問題として研究論文が他の記事の紙数を圧迫している状況を解消することが焦眉の急であることは、ご同意いただけると思います。

そこで、第29巻（2008年）から、研究論文については電子ジャーナル化することにより、掲載可となった研究論文を『エネルギー・資源』誌の発行と対応して2ヶ月間隔で学会ホームページにアップロードするとともに、『エネルギー・資源』誌の紙数余裕を確保して、新たな記事を積極的に掲載していくことを検討しております。多くの場合、電子ジャーナルというのは、ハードコピーに加えてオンラインでもアクセスできるものですが、本会の場合は、やむを得ずオンライン・アクセスだけとさせていただきます。



最近6年間の研究論文掲載数の変遷

そのかわり、研究論文の和文概要を『エネルギー・資源』誌に掲載することによって、読者の便に供したいと思えます。なお、研究論文の電子ジャーナル化にともない、『エネルギー・資源学会論文誌』という名称で学会誌から独立した雑誌といたします。

以前は2ヶ月に一度の編集実行委員会の席で進めていた査読の審議プロセスを、最近では電子媒体を用いて日常的に行うように改善しましたので、採否までの所要時間が飛躍的に短くなりました。（良質の研究論文の場合、投稿から採択まで最速で73日という例もあり、このことも最近の研究論文増加の一因ではないかと思えます。）したがって、現時点（2007年5月5日）までに投稿いただいている論文については、概ね2007年内に採否結果が出ると思えます。にもかかわらず、採択された論文は、2008年第29巻の電子ジャーナルに順次掲載されます（2007年11月号までの掲載決定分を除く）。これまでに投稿いただいた著者の皆様は、従来型のハードコピーとして発行されることを前提にいただいていると思いますが、その旨ご理解願います。また、今後に掲載される論文については、電子ジャーナルを前提とさせていただきますようお願い申し上げます。

以上、本誌にとっては第4巻（1983年）で研究論文が導入されて以来の大変革となりますが、会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。今後、電子ジャーナル化の内容を具体的に煮詰めてまいりますので、学会HPや『エネルギー・資源』誌2007年7、9、11月号の案内を、ご注意くださいようお願い申し上げます。

吉田 英生

（京都大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻教授）

E-mail: yoshida@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp